

全国社会的課題委員会



全国大学生協連
学生委員会
学生委員長 高橋明日香
編集者 杉山直輝

23/11/12(日)

第4回全国社会的課題委員会

概要

名称：2023年度 第4回 全国社会的課題委員会
日程：2023年11月12日(日) 13:00~17:00
場所：オンライン開催(Zoom)



参加者(敬称略)

- 委員長：後藤有里(東京ブロック副運営委員長)
- 副委員長：木下高志(大阪大学生協 専務理事)
- 生協職員：吉山(中四事業連合専務)、田中(宮城教育大学生協)
- ブロック事務局：藤木(北海道BK)、伊藤、田中(東北BK)、戸張、山田、二宮(東京BK)、福留、栗岩(中四BK)、吉村、赤澤(九州BK)
- 階層別組織委員会：高橋、鳥井、古橋、杉山、中野、加藤、中丸、梅田、平間、上木(全国学生委員)、
- 教職員：朴(三重大学)、
- 全国大学生協連：藤江・田足井(理事会室)

チーム別協議の時間

第4回全国社会的課題委員会は、「環境」「平和・国際貢献」「激甚災害支援・防災」「消費者」の4つの分野を軸にしたチームに分かれ、2023年度に行ってきた討議内容や提案内容などを振り返り、それぞれのチームでの成果や今後の課題などを話し合いました。様子は以下の通りです。

00 分野にわかれて 年間の振り返り

a.環境チーム

成果は、チーム別協議を通して、様々な地域の取り組みを、それぞれの地域に持ち帰ることができたということです。また、テーマに沿って話をしたことで専門性が増したこともあげられます。

課題は、今年度かんきょ〜ずMTGなどで取り扱った食品ロス問題に関する議論をより深めていくこと、リ・リバック回収活動を大学生協における環境活動のシンボルにしていくことなどが挙げられました。

今後は、eco-opといった冊子、またかんきょ〜ずMTGといった会員生協が集まる場を通して、挙げられた課題について議論していきたいです。

b.平和・国際貢献チーム

成果は、チーム別での協議を通して平和活動の地域ごとの推進の大切さや社会情勢に目を向けてメンバー内での考えを共有しあえたことです。1人1人の意見をしっかりと発信することができました。

課題は、全国大学生協連として大切にしている「民主主義的な考え方」の推進や、夏に開催されたPeaceNow!にチーム別のメンバーとして十分に関わることができなかったことなどがあげられます。

今後は、全国大学生協連が大切にしている平和への理解を今一度深め、チームメンバー自らができることを主体的に考えられるような場にしていきます。

c.激甚災害支援・防災チーム

成果は、チーム別協議を通して、チームの一人ひとりが激甚災害支援・防災に関する理解を深め、防災に関するツールを広げる方法や実際に必要なツールを考えることができました。対面セミナーでの防災声かけスライドを作ることができ、各ブロックのセミナーで使われるようになりました。

課題は、ツールも「ふくしま」スタディツアーの学びも会員生協に広く広まっているわけではなく、事務局からの提起で留まった点が挙げられました。

今後は、よりツールが会員で使われるようになるための促進方法を考え、実践していきたいです。

d.消費者チーム

1年間の振り返りとしては、**成果は**、消費者教育の重要性の再認識できた点やダマされないチカラ養成ハンドブックの活用方法の協議や食品ロス削減に向けて事前討議の協議を行い、地域で活用することが出来た点等が挙げられました。

課題はスケジュールの関係で全員が参加できる機会が少なかった点や地域との連携が不十分である点などが挙げられました。

今後は、地域との連携強化、消費者活動の魅力向上、分かりやすく実施しやすい活動の提案などを目指していきたいです。

01 LGBTQ学習会の振り返り

各地域での取り組みの拡大に向けて！！

LGBTQ学習会の振り返り

6月19日にLGBTQ学習会を開催しました！！

当日は90名の参加があり、

- ✓「誰かが取り残されるこのない受容的な環境づくりを自大学でも考えていきたい！」
 - ✓「まだまだ配慮が足りないと感じた！」
- などの感想を頂くことが出来ました。

また後日、学習会の様子を動画で発信することが出来ました！

協議ポイント

①：LGBTQ学習会を経て、各地域・階層ではどのような動きがありましたか？また、全国に広げていきたい取り組みはありますか？ (10m)

②：全国社会的課題委員会として、学習会の前後で、各地域・階層・各会員に向けて、どのようなアプローチがあると、活発な動きが目標せると考えますか？ また今後どのような必要なアプローチが必要だと考えますか？ (15m)

6月19日に開催した、「LGBTQ学習会」の振り返りを行いました。当日の学習会の様子は期間限定で、YouTubeにアップし、当日参加できない人にも学びの内容を届くようにしました。それらを踏まえ、各地域でどのようなアクションが生まれたのか、振り返りをしました。実際に生協職員や学生事務局等の動きとして、「動画視聴後にレポートの作成」や「交流会の実施」等がありました。また、学習会後に会員生協でも簡単にできる「チェックシート」や「3ステップ」など提案を行ったり、学習会前に各会員生協で考え、どういったアクションが出来るかを考えてきてもらったり、することで、より活発な活動が生まれていたのでは、という意見もあったので、今後に生かしていきたいです。

マイナーな人たちも社会にいるアクターの一人で、このお店はどうか？って考えることが大事。暮らしやすさを考えていくことが大事。生協の店がどんな環境になっているか？その視点でクリニックを考えていきたい。誰にとっても過ごしやすい店ってところを考えていきたい。(生協職員)

理解が深まった人の中でどのように行動すればいいのか、大学生協としてはどのような立ち位置でどのように動いていくのかを示すのも大切だなと思った。(学生)

02 昨今の社会情勢

ALPS処理水とパレスチナ問題の2つについて

今回は社会情勢として、「ALPS処理水」と「パレスチナ問題」の2つについて取り扱いました。

- ✓大学生協としてこれらに対して、どういったことが出来そうか、
- ✓問題の背景や現状を理解するためにどのようなことが必要か 等を話し合うことが出来ました。関心が高いトピックということもあり、活発な議論がされました。2つの問題についても**正しい知識と活動の輪を広げていく**ことが重要、という意見が多くありました。今後の学習会開催等の提案に活かしていきます。



廃炉はまだ何年かかるかわからない、電気代とかから払うことになる。税金の問題とかにもなる。そういう目線で考えていけたらいいのではないかな。ふくしまステイター等でも取り扱っていいのでは。(生協職員)

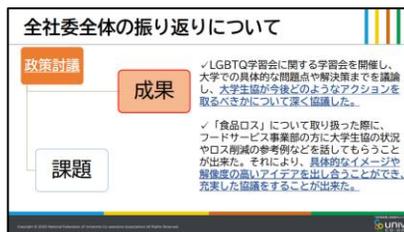


問題の現状背景を理解するという点で専門の人にお話してもらおうというのは大切だと思う。起きた背景もそうだけど、現地の人々がなにを望むかもそうだけど、総代と一緒にとかたくさんできる場はあるはず。大学生と作る就活応援ゼミというのもあるので、そういった切り口でアプローチもできる。(学生)

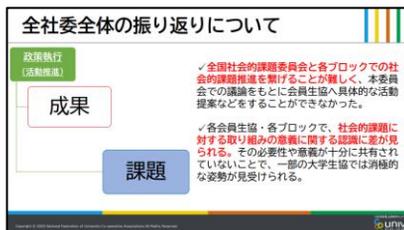
03 23年度全社委の振り返り

23年度全体の到達の確認や、各地の推進状況について

23年度における全国社会的課題委員会の振り返りを行いました。最初に総括の提案を行い、それらの内容に対して、協議を行い、各地・各階層別の到達や課題の状況についても話し合いを行いました。また実際に1年間社会的課題委員として、各地域での推進のやりやすさ、難しかったことなどについても意見を出し合いました。23年度の総括および、24年度への申し送り事項の参考としていきます。



推進はしやすかった。色んな視点を持ちながらブロックでの推進に繋がった。全国社会的課題委員会のみならず話し合えたことはすごく良かった。どこに力を入れるかは難しかった。(学生)



話すだけで終わってしまう、は感じた。話したからには行動に移さないと話した意味がない。が、難しいと思うので来年はもう少しそこを強化していけると。社会的課題に関する関心があまりない、そこに行きつくまでの体力がない会員もあると思うが、方針の1つとしてやっていくなら全会員生協で取り組んでいくべきだと思うので強化していけるといい。(学生)

つながる元気、ときめきキャンパス。



政策討議を政策執行に繋げます

+ α 地域報告で報告された、注目する取り組みとポイント



環境

北見工業大学生協「リ・リパック投票企画」

大学に遅くまで残っている人が多く、リ・リパックを使ったテイクアウトごはんを食べる組合員が多いという現状から、**組合員が積極的に回収活動に参加できるような仕組みを考えました**。お題を出し、好きな方に投票してもらうという形式で、リ・リパックの回収を行っています。また、お題は毎月変更され、組合員が参加したくなるような工夫が行われています。**この取り組みは通年で行われており、食堂でリ・リパックを回収してもらうということが習慣化されています**。

立命館生協APU「たった1分でサスペリが分かる！」

学生だけではなく、地域の人、職員など多岐にわたる人にも、回収活動に参加してもらっています。**多様なポップで目を引いており、わかりやすく伝えられている**。また、留学生が多いという学内の現状にあわせて、Instagramの投稿は**英語も併記されている**。

激甚災害支援・防災

弘前大学生協「健康安全まつり」

学祭で行っている健康安全の企画で、防災ブースを設けました。**東日本大震災被災時の弘前大学の様子や、防災のための備えとしてほしいものの欄にシールを貼る展示を行いました**。シールを貼ることで参加者が参加しやすく、震災当時の様子や大変だったことなどをありありと伝えていたので、組合員や地域の人々がしっかり学ぶことができていました。

東京大学生協「すきっくす(秋号)」

学生委員会が年4回発行している冊子「すきっくす」にて、災害対策特集を実施しました。購買で購入できる防災グッズも紹介しています。**組合員の現状から内容の編成をし、食料と水、衛生用品、情報・電気の3ジャンルを伝えています**。ローリングストックを日頃の食事から意識しようと呼びかけ、**防災に関して日常的な意識づくりができていました**。

松山大学生協「災害に対するシミュレーションの体験 @松山市防災センター」

いつ起こるかわからない災害のために、今からできることを組合員に伝えるために企画を行いました。まずは**学生委員自ら**が、松山市防災センターに行き、災害に対する趣味レーションを体験することで、**楽しく防災について学んでいました**。また、**その様子とサッとできる防災方法についてSNSで発信し、多くの人の反応がありました**。学んだことをしっかり組合員まで伝えることができていました。

平和・国際貢献

岩手大学生協

「教職員総代、理事へのPeaceNow!参加報告冊子ポスティング」

PeaceNow!に行く前の段階から支援を得ていた教職員理事や総代に向けて、作成した冊子を報告として活用。沖縄での学びに加えて、学生委員会が自らが調べた知識も冊子に記載し、より沖縄について深めることができていました。巻末にはワークシートも添付し、**読んでいただいた理事や総代の方にも平和について考えてもらうきっかけを提供できています**。

宮崎大学「各地域Peace Now!のポスター展示」

宮崎大学はPeaceNow!3地域にそれぞれ参加者がいましたが、各地での学びをポスターにし食堂に掲示しました。**食堂という多くの組合員の目に留まる場に掲示したことで、関心を持つ組合員も多くなりました**。この取り組みは、大学の平和に関する取り組みの展示と合わせたことでより効果がありました。**PeaceNow!の学びから、自分の地域の歴史についての学びを促せていた点もよかったです**。

消費者

三重大学生協・三重短期大学生協

「合同フェアトレード学習会・交流会」

・三重大学生協と三重短期大学生協の2つの大学生協合同で、フェアトレード学習会・交流会を実施しました。2つの大学生協の目的一致により、今回のような合同学習会を開催することが出来ました。当日は**三重短期大学の先生から、フェアトレードの制度や考え方について、講義をもらいました**。講義後には両大学で協力し、**学びのアウトプットとして、ポスターを作成しました**。今後フェアトレード商品が入荷したときに店舗に掲載する予定です。

東京ブロック「第2回社会をつくるミーティング」

・東京ブロックでは、10月22日に「第2回社会をつくるミーティング」を開催しました。当日は消費者分野関連である「お金」について取り扱い、ブラックバイトや188(いやや-消費者ホットライン)について説明しました。また、実際の会員生協の取り組みも紹介することができていました。

芝浦工業大学生協

「フードロス削減・焼き立てパン20% Off」

・芝浦工業大学生協では閉店30分前から焼き立てパンを20%値引きで販売しました。組合員に向けて「芝浦ペカリーは食品ロス削減に取り組みます！」ということが、しっかり伝えることができています。

